



令和4（2022）年度 第13期 とちぎの教育未来塾

第1日〔令和4（2022）年10月15日（土）〕

第13期生 102名



開講式

◆開講あいさつ 総合教育センター所長 大高 栄男

第13期「とちぎの教育未来塾」がスタートしました。今年度の「とちぎの教育未来塾」は、全4日間の日程で開催されます。第1日は集合型で実施し、開講あいさつでは、未来塾の目的・特徴や研修に臨む心構えについて話がありました。

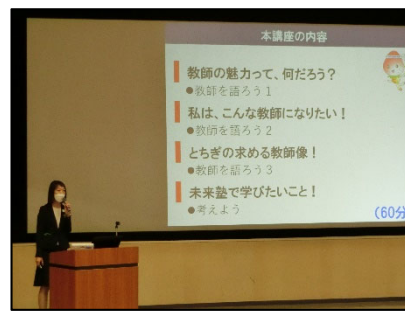


講話・演習

★「教師を語ろう」

栃木県総合教育センター研修部副主幹 渡邊 久子

それぞれの「こんな教師でありたい！」姿を受講者同士で共有しながら、教師として「とちぎの求める教師像」について考えました。また、それぞれの考えを現職・学生混合の班で共有しました。



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆教師とはどういうものか、これからどんな教師になったらいいのかを改めて考えさせられました。教師になろうと思ったきっかけも忘れかけていたので、自分を見つめ直すいい機会となりました。未来塾で自分と違う考えをどんどん吸収し、成長したいです。
- ◆普段、周りの人とこういった話題について語ることがなかったので、人の意見を聞いてすごく新鮮に感じました。また、新たな教師の魅力に気がつくことができました。このような意見の交換は、教員になるというモチベーションの維持や、やり甲斐を保つことにつながると考えています。

【学生等】

- ◆みんなが目指している教師像はそれぞれ違っていました。子供を第一に思い行動をしている教師という観点でみれば共通していました。また、現職の先生からの魅力を聞き、より教師という職に興味が湧きました。話し合う中で教師という職の素晴らしさと難しさを改めて感じることができました。
- ◆改めて、教師の魅力について考えることができました。特に印象に残っているのは、とちぎの求める教師像について話し合ったことです。同じ言葉であっても、それぞれが考える教師像が異なり、教師の奥深さや専門性について考えを深めることができました。

【選択講座A】 道德教育に関すること「道德科のイロハ」

栃木県総合教育センター研究調査部副主幹 佐藤裕美子



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆多面的、多角的な見方ができるような発問ができるようになりたいと思いました。心の弱さや人間らしさが出るように工夫し、たくさんの人の考えに触れさせることで子供たちの心を豊かにしていきたいと思います。
- ◆教育実習で道德の授業をしてから、自分の作った授業のどこが一体ダメだったのかずっとモヤモヤしていましたが、今日の講義を聞いて改善点がわかり、また一から授業を作って試したいと思いました。授業時数が少ないからこそ、一回の授業を大切に、子供達の心を育てていきたいと思いました。

【学生等】

- ◆道德と国語が混同しないようにするために、内容項目を大切にすることが印象に残りました。今回学んだ点を意識して教育実習では授業をしてみたいと思います。
- ◆教育実習で一度道德の授業をしたことがあります。その時の授業を振り返ると、とても悔やまれる思いになりますが、今回の講義を受講したことで、ただ悔やむだけではなく、なにがダメだったのかを具体的に振り返ることができました。

【選択講座A】 情報教育（ICT）に関すること「小学校におけるプログラミング教育」

栃木県総合教育センター研究調査部指導主事 福田 智貴



受講後の振り返りから

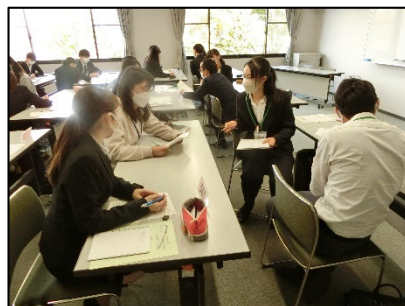
【現職】

- ◆プログラミング教育が進められていく中で、学校現場でどのように活用していけるか分かりませんでした。この講義を選択して、プログラミングができるようになっただけでなく、子供がどう考え、修正していくのかがいかに大切かが分かりました。早速、実践しようと思います。
- ◆プログラムの構築だけに留まらず、プログラミング教育を通して「何かを実行し、問題が起きればそれをどうやったら解決し乗り越えることができるか」を考える思考力を鍛えることで、子供達にとって、変化の激しい時代を乗りこなす確かな力になるということを感じることができました。

【学生等】

- ◆プログラミング教育では、プログラミング的思考力を育むことが重要でプログラミングができることが目的とはなっていないということを学びました。あくまでも教科の目標を達成することが第一でそれを達成するための道具としてプログラミングを用いるということを意識した上で、授業に臨んでいくべきだと感じました。
- ◆プログラミング教育が進んでいく中、正直、どのようなことがプログラミング教育で行われているのか理解できておらず、教師を志す者として不安に感じていました。しかし、今回受講したことで、各教科の学びを確実にする教育があるということを知ったと同時に、とても楽しく学ぶことができました。

【選択講座 A】 特別支援教育に関する「通常の学級における特別支援教育」 栃木県総合教育センター教育相談部指導主事 仁藤 裕子



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆実際にあるような事例を元にして、様々な解決方法や施策について他の受講者と考えることは、とても意義のある活動のように感じました。また、子供を理解しようとするのと個別のニーズを把握することが、特別支援の最も重要なことだと改めて感じました。
- ◆この講座を受講して、自分がやってきたことが間違っていなかったと感じることもできましたし、新たな気付きもありました。子供たちには、温かい言葉をかけ、認め励ましていきたいと感じました。

【学生等】

- ◆特別支援教育というと「通常学級と切り離されたもの」という印象が強かったのですが、今回、通常学級との連携を担う担任の役割が非常に重要であることを理解し、具体的な場面を想定したセッションを通して現場で生きる対応策を様々な角度から考え直すきっかけになりました。
- ◆特別支援教育は、「特別」な支援をする教育ではなく、全ての子供一人一人に対して行なわれる教育であると学ぶことができました。また、障害の有無や障害名にとらわれず、目の前にいる子供を大切に、適切に関わっていくことの重要性も学ぶことができました。